平成29年度

瑞穂町青少年国際派遣事業

報告書

MIZUHO JAPAN

CITY OF MORGAN HILL

瑞穂町教育委員会

Mizuho Education Board

１　派遣期間

平成２９年８月１８日（金）～８月２８日（月）

２　派遣団

瑞穂町教育委員会	教育部長	福井　啓文
	社会教育課推進係長	福岡　賢治
学生	瑞穂中学校３年生	野﨑　意
	瑞穂中学校３年生	村野　美和
	瑞穂中学校２年生	古谷　亜衣
	瑞穂第二中学校３年生	保坂　凜
	瑞穂第二中学校３年生	渡邊　ひなた
	瑞穂第二中学校２年生	山崎　紗彩
	瑞穂第二中学校２年生	五十嵐　弦
	都立立川国際中等教育学校	沼澤　賢

３　派遣場所

アメリカ合衆国カリフォルニア州モーガンヒル市（瑞穂町姉妹都市）

４　派遣の目的

姉妹都市モーガンヒル市に中学生を派遣することで、交流を深め、国際感覚を養うとともに、社会性や自立性、感性の向上を通して瑞穂町ひいては日本のよさを認識することを目的とします。また、ホームステイを通じて、アメリカと日本の文化や慣習の違いを学ぶとともに、日常会話に必要な英語力を身につけ、コミュニケーション能力を高めます。

また、この国際派遣研修を通じて学んだことを、今後の瑞穂町を担う青少年として、大いに活用していただくことを目的とします。

※別添「実施計画書」参照

５　派遣団員選考

町内各中学校にチラシ配布、広報にて派遣団員を募集したところ、２７名の応募がありました。（男子７名・女子２０名）

対象は町内在住、在学の中学生。

作文審査と面接審査の合計で選考。

作文テーマ「モーガンヒル市で学びたい事～今後への活かし方～」

※別添「選考要領」参照

６　事前研修

モーガンヒル市での現地研修に向けて、下記の日程で実施。

第１回事前研修　平成２９年６月１４日（水）
内容：自己紹介　集合写真撮影　青少年国際派遣事業概要説明　渡航手続き・海外旅行保険加入手続きについて　ＥＳＴＡ申請等について　派遣団ポロシャツについて　派遣事業報告シートについて　ウエルカムパーティ及びサヨナラパーティでの出し物について

第２回事前研修　平成２９年７月７日（金）
内容：広報みずほの報告レポートについて　提出書類の回収　英会話レッスン　ウエルカムパーティ及びサヨナラパーティでの出し物の練習

第３回事前研修　平成２９年７月２８日（金）
内容：姉妹都市委員会の方による研修　前回派遣団員との情報交換

第４回事前研修　平成２９年８月２日（水）
内容：持ち物の確認　渡航の行程確認　ウエルカムパーティ及びサヨナラパーティでの出し物の練習

第５回事前研修【結団式】　平成２９年８月１０日（木）
内容：現地研修に向けた最終確認　瑞穂町長と派遣団員による結団式（派遣団員の抱負　町長、教育長からの激励）　持ち物の確認及び渡航最終確認　出し物の練習

7　現地研修

（1）モーガンヒル市の中学生との交流、姉妹都市委員会との交流、ホストファミリー、モーガンヒル市姉妹都市委員会の方々や同年代の子どもたちとの交流を通じ、若い世代が将来にわたり両市町間の友情を引き継いでいくことが出来ました。派遣された８名が、１０日間で多くの体験をし、同年代の人たちとの意見交換、また、アメリカと日本の制度の違い等多くのことを学びました。

（2）モーガンヒル市施設見学など瑞穂町や日本との違いを身近にして、多くのことを学ぶことができました。

（3）モーガンヒル市長、教育長、姉妹都市委員会の方々、多くのボランティアの方々から盛大な歓迎を受け、歓迎レセプションでそれぞれが練習した出し物の披露をしました。

８　現地研修行程

月日（曜日）	時　間	スケジュール	備　　考
平成２９年	１０時００分	派遣団員 スカイホール 出発	・総務課マイクロバスで移動
８月１８日（金）		成田空港 到着	
【日本時間】	１６時５５分	成田空港 出発	・ＵＡ８３８便にて
平成２９年	１０時４０分	サンフランシスコ空港 到着	・現地姉妹都市委員会出迎え
８月１８日（金）	１２時００分	サンフランシスコツアー	・姉妹都市委員会バンにて移動
【以下米国時間】	１７時００分	モーガンヒル市 到着	
	１８時００分	歓迎レセプション	
		各派遣団員ホストファミリー宅	
平成２９年	終日	ホストファミリーと過ごす	
８月１９日（土）			
平成２９年	１３時００分	ロッキンジャンプ	
８月２０日（日）	１５時００分	スイミング＆バーベキュー	
平成２９年	終日	モーガンヒル市庁等見学	
８月２１日（月）		モーガンヒル図書館見学	
平成２９年	８時３０分	中学校訪問	・体験入学（授業に参加しました。）
８月２２日（火）	１４時００分	モーガンヒル歴史博物館見学	
平成２９年	８時３０分	中学校訪問	
８月２３日（水）	１９時００分	モーガンヒル市議訪問	・市公式紹介
平成２９年	１１時００分	スタンフォードツアー	
８月２４日（木）	１８時００分	公園でサマーファン	（出し物を披露しました）
平成２９年	８時３０分	中学校訪問	・体験入学（授業に参加しました。）
８月２５日（金）	１８時００分	お別れパーティー	（出し物を披露しました）
平成２９年	終日	ホストファミリーと過ごす	
８月２６日（土）			
平成２９年	８時００分	コミュニティーセンター集合	・姉妹都市委員会バンにて移動
８月２７日（日）	８時３０分	モーガンヒル市出発	
		サンフランシスコ空港　到着	
	１１時４５分	サンフランシスコ空港　出発	・ＵＡ８３７便にて
平成２９年	１４時０５分	成田空港 到着	・総務課バスにて移動
８月２８日（月）	１７時４０分	スカイホール到着	
【日本時間】	１７時５０分	解散	

お別れパーティのためのプログラム（モーガンヒル市姉妹都市委員会作成）

4：00-5：00　練習―音響システム準備

5：00　準備

6：00　到着―スライドショーを流す

6：10　開式

1　歓迎&紹介　－　メアリーとジュディ

a　料理人へのお礼

b　通訳者＆贈り物へのお礼

2　瑞穂町からのプレゼンテーション

a　福井部長のスピーチ

b　贈り物

a　ホストファミリー　―派遣団１０名が１１名のホストに贈り物を渡す

b　姉妹都市委員会（バーニー委員長へ）

c　誰も知らない（その他３人）

c　メアリー＆シンディ

a　市長贈り物

b　引率者贈り物

c　事務員のための贈り物

d　夕食を許す

6：30　夕食

7：00　瑞穂町派遣団員のパフォーマンス

引き続いて、モーガンヒル市派遣団員パフォーマンス

7：45　閉会

1　生徒達が手紙を読む

2　来てくれた方々にお礼

3　生徒達が手ぬぐいを配布

９　事後研修

現地研修後に、こどもフェスティバルでの青少年国際派遣事業写真展や青少年の主張にて報告会に向けて事後研修を実施。

第１回事後研修　平成２９年９月１９日（火）
内容：報告書及び現地写真の確認（報告書、感想文及び現地写真データ取り込み）
現地写真…青少年国際派遣事業写真展
（10 月 22 日こどもフェスティバル）
報告書…青少年国際派遣事業報告会（12 月 2 日青少年の主張）

第２回事後研修　平成２９年１０月１１日（水）
内容：青少年国際派遣事業写真展（こどもフェスティバル）パネル作成

第３回事後研修　平成２９年１０月１７日（火）
内容：青少年国際派遣事業写真展（こどもフェスティバル）パネル作成

○平成２９年１０月２２日（日）青少年国際派遣事業写真展
※こどもフェスティバルが台風の影響により中止となったため、青少年国際派遣事業写真展（内容は青少年国際派遣事業ブース設置にて写真展）は実施できませんでした。
代わりに１０/２８（土）～１１/５（日）スカイホールにて開催した瑞穂町総合文化祭で青少年国際派遣事業写真展の展示をしました。
また、１１/１１（土）.１２（日）産業まつりでも姉妹都市委員会（企画課）から借用願いがあり、姉妹都市委員会（企画課）ブースにて展示しました。

第４回事後研修　平成２９年１１月１３日(月)
内容：青少年国際派遣事業報告会(青少年の主張)準備

第５回事後研修　平成２９年１１月２７日(月)
内容：青少年国際派遣事業報告会(青少年の主張)リハーサル

○平成２９年１２月２日（土）青少年国際派遣事業報告会
　青少年の主張にて青少年国際派遣事業報告会を実施しました。派遣団員が研修テーマについてパワーポイントによるスライドを上映しながら報告しました。

１０　派遣団員報告

　各派遣団員は、事前に設定した研修テーマを現地で調査し、報告書を作成しました。また、それぞれの感想文も作成しました。

古谷　亜衣　　瑞穂中学校２年

【報告書】『食生活について』

私がアメリカに行き、食生活について驚いた点はたくさんありました。

まず一つ目は、食事をする場についてです。私の行ったホストファミリーの家では、ほぼ毎日外食でした。学校があった４日間の朝食以外は、朝、昼、晩すべて外食でした。毎回ハイウェイに乗り、時間をかけてたくさんのお店に連れていってくれました。なので、朝に外食の時は、起きる時間が早く大変だと思うこともありました。しかし、毎回食事はとても美味しく、それも一つの楽しみでもありました。

二つ目は、食事の量についてです。アメリカの食事の量は、日本に比べてサイズが大きく、量が多いです。私が二日目に食べに行ったお店の朝ごはんには、特に驚きました。それは、朝からステーキが出てきたからです。それに他にもパンケーキにワッフル、スクランブルエッグなどテーブルいっぱいに出てきました。それには正直とても驚きました。私は、朝からこんなに量を食べたのは初めてだったのでとてもお腹にたまり、その後あまり食欲がでませんでした。私の場合は、どこに行っても食べ物をたくさん食べさせてもらっていたので、アメリカにいる間は、お腹がすいたと思うことはほとんどありませんでした。

三つ目は、お店で食べ残してしまったもののお持ち帰りができることについてです。アメリカでは、量が多く食べ残してしまうこともありました。しかし、どこのお店にも、残したものを持ち帰るための容器が置いてあり、それに詰めて家に持ち帰りができました。ラーメンなどの汁物も容器に入れて持ち帰りができることはすごいと思いました。日本にもこのような持ち帰りのシステムがどのお店にもあったらいいなと思いました。

他にも夜遅くにアイスを食べに行ったり、家には、たくさんお菓子があったり、学校では、ブランチタイムの時間があり、あらかじめ家から持ってきたお菓子を生徒が急に食べ始めたりとたくさん驚いたことがありました。

各家庭それぞれですが、私は、毎日外食だったということがとても印象深かったです。派遣団として米国のモーガンヒル市に行かせてもらい、日本とアメリカの食生活の違いを知ることができ、とても良い体験ができました。

【感想文】

私は、瑞穂町青少年国際派遣事業の派遣団として、姉妹都市であるモーガンヒル市に行かせてもらい、たくさんの貴重な体験をしてくることができました。

行く前は、不安と思うことがたくさんありましたが、ホストファミリーが温かく迎えてくれ、とても親切にしてくれたので、アメリカにいる間楽しく過ごすことができました。

私が滞在したホストファミリーの家では、朝、昼、晩、ほとんど毎日外食でした。それには、とても驚きました。朝、外食の時は起きる時間が早く大変だと思うこともありましたが、どの食事も美味しくてそれも一つの楽しみでもありました。私のホストファミリーはたくさんの観光地に連れていってくれました。なかでも一番印象に残っているのは、サンフランシスコに連れて行ってもらったことです。サンフランシスコではボートツアーに参加しました。監獄島と呼ばれているアルカトラズ島の横を通ったり、ゴールデンブリッジをくぐったりと、サンフランシスコの風景を楽しむことができました。これはとてもよい思い出になりました。

最初の二日間は、英語でのコミュニケーションの取り方がわからず、

うまく伝えることができなかったので不安な気持ちでいっぱいでした。そんな時に瑞穂町からの派遣団員全員と、各派遣団員のホストファミリーが集まって行われた、バーベキューパーティーがありました。そこでは、プールで泳いだり飛び込んだり、バレーボールをしたりしました。久しぶりに日本語でのコミュニケーションをとることができたので不安な気持ちがほとんどなくなりました。そして、各派遣団員のホストファミリーの人達とも仲良くなることができました。

私たちは、モーガンヒル市の学校や施設にも行きました。学校の黒板はほとんどが、プロジェクターを使っての授業でした。アメリカの学校ではブランチタイムというお菓子を食べる時間があったり、３Ｄプリンターがあったりと驚いた事がたくさんありました。町の施設では、モーガンヒル市を創ったモーガンヒルさんの家に行ったり、資料館に行ったりしました。これらの場所でモーガンヒル市の歴史を学ぶことができました。

モーガンヒル市ではたくさんの人達にとても親切にしてもらいました。私たちが行くために様々な準備をしてくれた方々に感謝しています。瑞穂町青少年国際派遣団員としてモーガンヒル市に行かせてもらい様々な体験をさせてもらいました。今後に生かせるものは生かしていきたいと思います。

野﨑　意　　瑞穂中学校３年

【報告書】『学校について』

今回の派遣では、３つの学校に行きました。

学校見学で特に印象強かったことは２つあります。

１つ目は、授業の受け方です。まず、モーガンヒル市では、どの学校もパソコンを使って授業を受けていました。学校の校内見学で授業を初めて見たときに、生徒全員がパソコンに向き合って授業を受けていることにとても驚きました。先生もホワイトボードには書かずに、パソコンでのアプリで授業をしていきます。生徒はそのやり方を真似して１人１台パソコンを使い授業を受けていました。日本でもパソコンを使う授業はしますが、基本はノートに書くので、モーガンヒル市と日本の授業の受け方はあまり変わらないのかなと思っていましたが、１人１台パソコンを使うという日本とアメリカの規模の違いで授業の違いがでていました。

モーガンヒル市では、中学生から自分のパソコンを家に持ち帰ることができるそうです。また、モーガンヒル市の学校ではクラスルーム

がありません。生徒が受ける教科を自分で決め、その教科の教室に生徒が移動します。

日本では、基本、週の授業時間が先生によって決められていて、クラスルームに先生が来て授業を始めます。基本的な授業の受け方も日本とモーガンヒル市(アメリカ)ではまったく違うやり方で授業を受けていることがわかりました。

二つ目は、先生と生徒の関係です。

日本では、先生と生徒という上下関係がしっかりとしている印象です。モーガンヒル市では、上下関係が無いということではありませんが、日本より距離が近く、楽しそうに先生と生徒が話している様子がとても印象強いです。

学校以外でもアメリカの方々は遊園地や、ショッピングモールなどで初めてあった人ともフレンドリーに話している人がたくさんいました。日本ではあまりそういう事がないのではじめはとても驚きました。知らない人ともフレンドリーに話すことはとても良いことだなと現地で改めて実感しました。

私はよく、アメリカのドラマが好きで、学校が舞台になっているドラマもよく見ていました。ですなので、「アメリカの学校はこういう感じなのかな。」というイメージができていました。ですが、そのイメージとは違うところが沢山ありました。

現地に行かないと分からないもの、感じられないものばかりでした。アメリカの学校の良いところは日本にも取り入れ、日本の学校の良いところをアメリカにも取り入れるといった交流がアメリカと日本の更なる学校の発展に繋がっていくと思います。

【感想文】

私は、今回のモーガンヒル市への派遣事業で、自分の英語のコミュニケーション能力を高めるため、アメリカと日本の同じところ、違うところを知ることの２つの目標がありました。その目標は両方とも自分なりに達成することが出来ました。

まず、英語のコミュニケーションでは、私は最初、「３年間の学習だけの英語で会話ができるのか」ととても心配な気持ちでいました。行きの飛行機や、モーガンヒル市についてからの１、２日目は本場の英語は聞き取りづらく、とても苦戦しました。

しかし、３、４日目からは単語が聞こえるようになり会話ができるようになりました。会話では文にするのが難しいときには単語やジェスチャーで伝えても理解してくれたので、自分で工夫をして、伝えることが大切だと思いました。

２つ目アメリカと日本の同じところ、違うところについてです。
まず、アメリカと日本の違うとところは、規模の大きさです。アメリカについたときに大きいなと思いました。ハイウェイというアメリカの高速道路の車線がとても多いこと、家の一軒一軒がとても大きいことなどアメリカの規模にとても驚きました。

アメリカ、特にモーガンヒル市と日本の同じところは、たくさんの会社があることです。モーガンヒル市にはシリコンバレーが通っているので、特にサンフランシスコに近づくとたくさんの会社が立ち並んでいました。日本も都内のほうにはたくさんの有名な会社があるので、似ているなと感じました。

今回の派遣ではホストファミリーはもちろん、学校で色々なことを教えてくれた中学生の子、モーガンヒル市について教えてくれた現地の方々など、たくさんの出会いがあってさまざまなアメリカ、モーガンヒル市についての知識、経験を得ることが出来ました。

モーガンヒルの方々は、とても優しく、フレンドリーで、会話していてとても楽しかったです。

また今回の経験で自分の世界が大きく広がりました。さらに英語を学びたいと思いました。

この経験を活かして、受験や就職などのこの先の将来に活かしていきたいです。またモーガンヒル市、アメリカに行ける機会があればぜひ行きたいです。

村野　美和　　瑞穂中学校３年

【報告書】『環境について(気候や乾季雨季による違い)』

私は今回アメリカのモーガンヒル市を訪れたことで、日本とは違う気候や風土、環境を自分の目で見て感じることができ、本当によかったです。目に映るもの、感じるものすべてが新鮮で、とても貴重な体験になりました。

サンフランシスコ空港に到着したときまず驚いたのは、この時季日本はとても蒸し暑いのですが、サンフランシスコの空気は湿度が低く、からっとした暑さだったということです。

モーガンヒル市も降水量が少なく乾燥しています。雨が降りやすい時期は１０月から２月ということで、私たちがいた１０日間はほとんど雨が降りませんでした。そびえ立つ山々は多くの木が枯れていて茶色く、所々山火事で黒く焦げてしまった部分が模様のように残っていました。雨が少ないということが景色からも感じることができました。

また、雨が極端に少なく水を節約しなければならないときは、水を必要とするものをなるべく減らすために、芝生を枯らしたり、木を

切ったりするなどの工夫をしているそうです。私がホームステイをしている間でも、洗濯をする回数が週１回程度だったことや、流す水が少ないためトイレがつまったり流れにくいことがあること、出かけるときは水筒を持ち歩くことなど、水が大切に使われていることを実感しました。

モーガンヒル市はサンフランシスコ州サンタクララ郡に位置し、サンフランシスコから南へ１１０ｋｍのところにある、自然豊かで素敵な町です。大きな畑が広がっていて、道路をウサギやリスが横切ることもありました。

空気が澄んでいて、夜空を見上げると満天の星空が広がっており、まるでプラネタリウムのようでした。夜のパーティーや外出の時ホストファミリーといっしょに星を見たのはとても楽しかったです。

モーガンヒル市は平均的に温暖な気候ですが、昼と夜の気温差が激しく、昼間は３０℃近くあり暑いのですが、夜は上着が必要なほど寒かったです

サンフランシスコやモーガンヒル市の町並みは畑が広がっているところと住宅が密集しているところに分かれていました。またアメリカは国土面積が広くだいたいの移動が自動車のため、高速道路が日常的に使われていました。また車道が広く日本の倍くらいありました。日本とは車道の位置が逆なので、不思議な感じがしました。

このようにアメリカの風土や気候、環境が日本とは違うため、新しい発見がたくさんありました。環境に適した暮らし方の工夫がよくわかり勉強になりました。

【感想文】

私は瑞穂町青少年国際派遣事業で８月１８日から８月２８日までアメリカのカリフォルニア州にあるモーガンヒル市に滞在しました。現地ではたくさんの人と出会い、アメリカの文化や習慣などを体験し、充実した時間を過ごすことができました。

私達は各家庭に１人ずつホームステイをさせていただきました。私のホストファミリーは優しくて、おもしろくて、仲が良く、家族愛にあふれていました。

私のホストファミリーの子は私の家族の名前や日本語を覚えるのに積極的でした。ホストファミリーはよく私に日本のことを質問しました。初めは言葉が通じるか不安でしたが、この１０日間単語を並べる感じでもいいから、「伝える」という気持ちを大切にして英語を話しました。伝えようとする気持ちがあれば、相手も理解しようとしてくれます。単語でも想像以上に会話が弾み、内容が伝わったことがとても嬉しく、自信にもなりました。

ホストファミリーとは遊園地やショッピングモール、野球観戦に行きました。家では夕食後にトランプやＵＮＯ、チェスなどで遊びました。

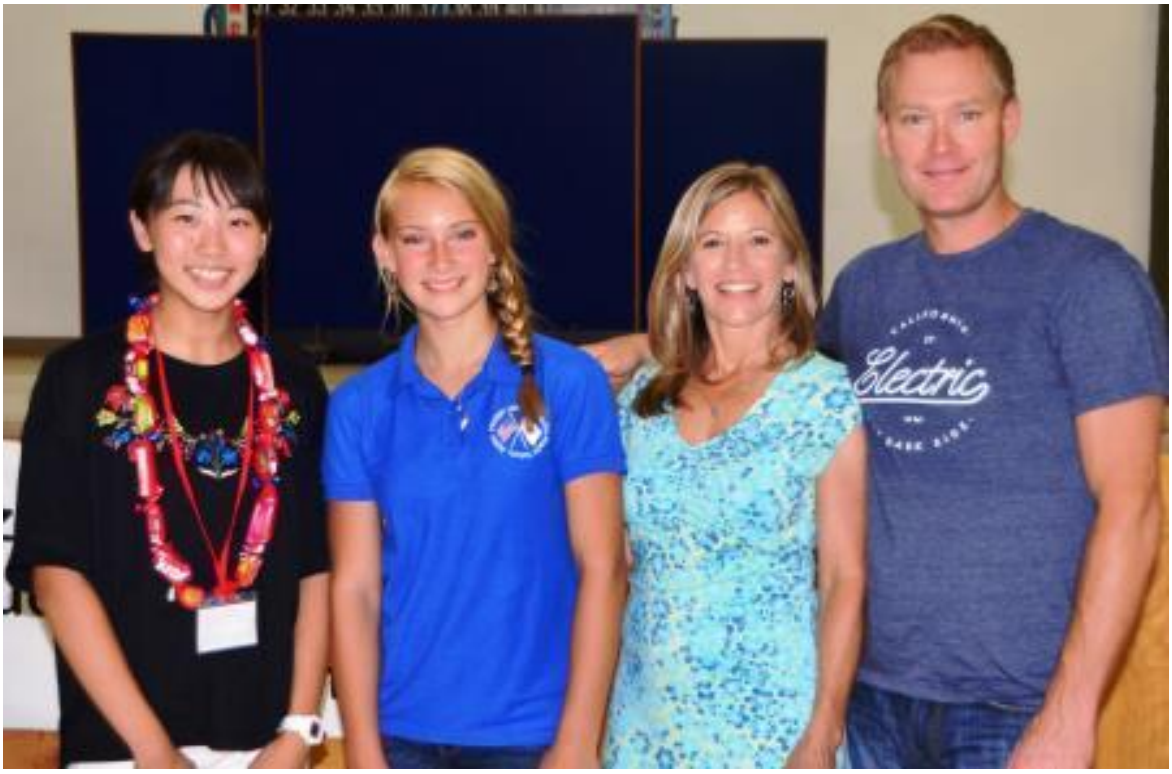
食事ではたくさんのアメリカの食べ物に出会い、アメリカの食文化を体験し、学ぶことができました。アメリカの食べ物は１つ１つの量が多く、形が日本より大きくて味が濃かったです。アメリカでは食事をする前にお祈りをし、乾杯のようなしぐさで食べ物への感謝を表していました。

私達はモーガンヒル市の３つの中学校を訪問しました。細長い校舎がいくつも並んでいることや生徒が移動して授業を受けること、ブレイクタイムといっておやつを食べる時間があること、授業の時黒板を使わないことなど、日本とは全く違い驚きました。また、学年の分け方が日本と違い、１３歳までが中学生で１４歳から高校生でした。新年度が８月から始まることもわかりました。各学校の生徒は積極的に私たちに話しかけてくれて嬉しかったです。私も質問できてよかったです。

最終日にはホストファミリーと泣いて別れを惜しみました。言葉や文化の違いを超えた友好関係を築くことができてよかったです。

この１０日間でたくさんのことを学び、国を超えた絆を結ぶことができました。自分の視野を広げることができたと思います。今回の研修を通し学んだことを２０２０年の東京オリンピックなど国際的な活動に生かしていきたいです。これからも英語力を高め様々なことに対して積極的に挑戦していきたいです。

山崎　紗彩　　瑞穂第二中学校２年



【報告書】『日本との違い』

私は留学するにあたって姉妹都市であるモーガンヒル市と日本との違いについてどういった点が異なるのか調べてみたいと思いこのテーマにしました。実際にモーガンヒルへ 10 日間行きたくさん見つけました。

まず、学校のシステムが全然違いました。日本では各クラスの教室を教師が移動していきますが、モーガンヒルの学校は美術室、音楽室の様にこの教室はこの先生の教室と決まっていて生徒達が毎時間教室を移動していくスタイルでした。その方が先生方の負担も減って授業に必要な道具も揃うため良いのかなと考えましたが、日本は人口密度が高くアメリカの様なとても広い廊下は作れないので、毎回全生徒が教室移動をしたらとんでもなく混雑するし教師が移動した方が効率よく毎日の授業ができるだろうと思いました。

またアメリカはどこも道路が日本の２倍くらいある事に驚きました。３車線や４車線は結構あり、私も滞在中は車とバスしか乗りません

でした。行動範囲が広く日本のように徒歩、自転車、バイクなどで移動する人は見かけませんでした。東京は狭いため、近くに色々なものが揃っていると感じました。

最後に一番の発見は気候の違いです。お別れパーティの日、私は始まる前に出し物の習字の練習を一枚し、本番前忙しいだろうと思い硯に墨を入れたまま習字道具を置いていきました。パーティが始まり食後すぐに呼ばれ出し物がスタートしました。まず皆で歌い私の習字の番になるのですが、さあ始めようと思った時、筆と硯の墨が乾いてしまっていたのです。ほんの１５分位置いただけだったのにこれじゃ書けないと思ったもののもうステージ上で、カチカチの筆を無理矢理ほぐし、量が少なくなってどろどろの墨汁につけ、何とかかすれてはいるものの書き切りました。この時とても実感しました。この地域が乾燥しているという事を。日本では今まで一度もこんな事は無かったのでびっくりしてパニック寸前でした。自分の出し物がどうにか終わり本当に良かったです。

モーガンヒルへ行き、日本は狭いのに人がとても多い事がよく分かりました。そして狭い中でも多くの人々が暮らしやすい様に独自の文化がたくさんあったのだと今まで意識していなかった事に気がつきました。また日本はとても水に恵まれている事もわかりました。成田空港に着いた時のもわっとした空気がとても新鮮に感じました。雨や湿気は嫌いだったけど乾燥して水が足りなければ人間は生きていけないので住みやすい環境に住めて良かったです。

【感想文】

「外国ってどんなところだろう。」「もし行けたらどのくらい自分の英語が通用するのだろう。」そんな思いがきっかけで応募し、数十人の中で合格出来た事はすごく嬉しかったです。

正直、家族にも友達にも会えず日本語の無い生活をすると思うと本当に自分にできるか心配になりました。でも、空港までのバスの中で他の派遣団員と話すうちにこの人達となら頑張れる、楽しめそうと思

えてそこから先はもう気持ちが切り替わり単純に早く着かないかなと楽しみでした。私には人生で初めての空港、飛行機で、やはり飛行機に乗る時は緊張しました。

無事サンフランシスコ空港に到着し、ロビーへ行くと担当の方々が横断幕を持ち大きな声で大歓迎してくれました。

そしてモーガンヒルに着くとついにホストファミリーと対面しました。私のホスト先の子は綺麗で背が高く、性格も可愛い素敵な女の子でした。お母さんは陽気で明るくたくさん話しかけてくれる方で、お父さんは家族を愛している優しい人でした。この素晴らしい家族に、キャンプやパーティ、海に遊園地にショッピングと様々な場所へ連れて行ってもらい、たくさんの体験をさせてもらいました。

二日目はファミリーとキャンプへ行きました。そしてテントを立てようとした時に、二つ持ってきた物のうち片方のテントのサイズをマザー達が間違えたようで、とても小さい一人用テントでみんな大爆笑でした。遊園地では他の派遣員とその家族も一緒で、乗り物に屋台に、言葉はそんなに通じなくてももう友達と遊ぶような感覚でした。

日程の前半はそんな楽しくてしかたない日々を送っていましたが、研修の中に三日間ある中学校訪問で現実を突きつけられました。校内でひとり私を担当してくれた生徒の子のスケジュールと同じ授業を受けて回る時、私の話す英語は全然伝わらない上に、相手はとても早口で聞き取る事さえ難しく、授業の内容など理解できたものではありませんでした。ホストファミリーは私のために、簡単にゆっくり話してくれていたのだとその時になりよく分かりました。でも、時々黙り込む私にみんなユーモアをもって優しく接してくれて、素敵なところだと思いました。

私はアメリカの文化に触れたくさんの事を学ばせてもらいました。英語はまだまだ力不足だと身に染みて分かり、この先の勉強に役立てたいです。そしてホストファミリーと過ごした時間は本当に楽しく、生涯忘れられない大切な思い出になりました。いつか必ず再会したいです。

この経験を活かし、さらに勉強をしてまたアメリカへ行きたいです。そして将来は、英語や海外に関わる仕事がしたいです。

五十嵐　弦　　瑞穂第二中学校２年

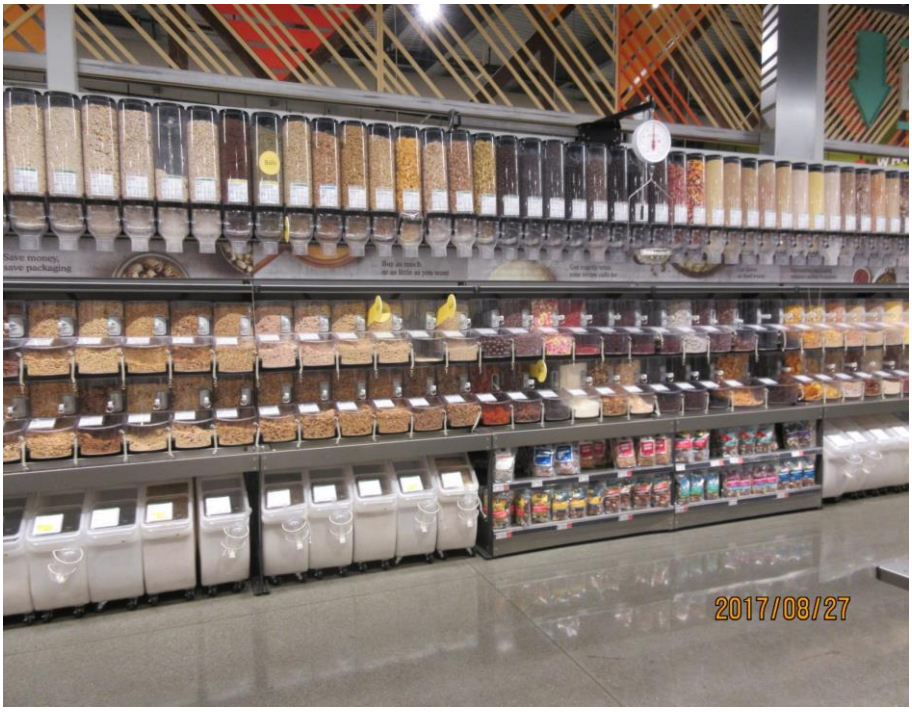
【報告書】『観光地や観光施設について』

　ぼくは、モーガンヒルに行く前に課題のテーマを決めました。
そのテーマとは日本とアメリカのショッピングセンターのちがいです。
日本とアメリカのショッピングセンターのちがいは主に３つありました。

　一つ目は、ショッピングセンターの高さと広さです。アメリカのショッピングセンターは、日本とはちがいとても低かったです。日本は、面積が少なく縦にのばすことしかできませんが、アメリカは、面積がとても広いので横に伸ばすことが出来るので高さは必要ないようです。なので、一階建てのものがおおく、そのかわりにとても広かったです。

　二つ目は、ショッピングセンターの中です。
アメリカのショッピングセンターは、一階建てのものがほとんどなのですが、一階建てとは思えないほど天井が高く、日本の一階建ての家の２，３倍以上の高さは、ありました。そして、天井が高い分それにともない商品棚もとても高かったです。商品棚は、大人の人でもギリギリ届くか届かないくらいの場所もあれば、本当の壁のように高いものもあり、全体的に日本より高かったです。

もうひとつちがっていた場所は、レジです。
アメリカの人たちは休日の日に物を買い込むので、土日はとてもこみます。なので、お会計中の人から後ろ３，４人の人がベルトコンベアーに乗せて待ちます。そして、お会計中の人が終わると店員が必要な分だけ、ベルトコンベアーを動かし手繰り寄せるという仕組みになっており、この仕組みでできるだけ客がこまないようにしていました。
三つ目は、アメリカのショッピングセンターの店員の態度です。
日本のショッピングセンターの店員は普通にレジ打ちをして袋に入れてくれるだけですが、アメリカのショッピングセンターの店員は、いらっしゃいませと言うのはもちろんですが、世間話をしてきたり、頼んでもないのに荷物を持ってくれたりしました。日本のショッピングセンターの店員とは、大違いだなとおもいました。
最後にぼくはこのテーマを調べられてよかったです。



【感想文】
ぼくはモーガンヒルに行く前に目標を三つたてました。
一つ目はアメリカと日本の食文化のちがいを知ることです。
朝食は、日本とあまりかわらずトーストやシリアルのような簡単家庭

な家庭が多かったです。昼食は、日本と少し変わっていてお菓子だけですませている人もいれば、ぜんぜん食べてない人もいて、ハンバーガーなどをいっぱい食べている人もいました。夕食はあまり野菜がなく、ポテトや肉がとても多かったです。

二つ目はアメリカの学校と日本の学校とのちがいを知ることです。アメリカの人達は登校下校ほとんどを車で行い、授業時間も学校ごとにちがい３０分のところもあれば日本と同じで５０分授業のところもありました。

そしてぼくが一番驚いた日本とのちがいは休み時間と授業です。休み時間ではみんな昼休みでもないのにバスケットボールをしたり家からもってきたお菓子を食べたりしていました。

授業はアメリカでは自分の教室というものがないので、すべての授業が教室移動でした。さらに、小学３年生から生徒一人一人にパソコンを貸出し、授業もパソコンでやり、持ち帰りもでき、それで宿題などもやるみたいです。

三つ目は、アメリカの人々との交流と自分自身の英語力の向上です。ぼくは、ホームステイをしてホストファミリーの人たちと一緒に買い物に行ったり、水族館や野球の試合を見に行ったり、チェスをして遊んだりしてとても楽しかったです。

英語力の向上では、ぼくはあまり英語ができず最初は話しかけられても、戸惑ってしまいあまり話すことができませんでしたが、途中で勇気をだして話しかけてみたら、意外と落ち着いて会話することができたのでよかったです。さらに、耳もなれてきてある程度のことなら会話できるようになったのでよかったです。

最後にぼくは、このモーガンヒル派遣事業のおかげでいまあげた３つの目標を達成し、学ぶことができました。なので、このモーガンヒル派遣事業はぼくにとって有意義なものになりました。そして、こういう機会がまたあったら積極的に参加していきたいです。

渡邊　ひなた　瑞穂第二中学校３年

【報告書】『生活習慣について』
生活習慣の違い
１．トイレ、お風呂について
　私のホームステイ先では、お風呂とトイレが同じ部屋にあり、ビニールのカーテンやガラスで仕切られていました。シャワーは壁に固定してあり、湯船でシャワーを使い、体を洗いました。トイレでは、トイレットペーパーが日本のものより、沢山捲いてあって、肌触りがごわごわでした。当然ですが湯船につかる習慣は、ありませんでした。

２．食事について
　初めて食事をしたときに大きさに驚きました。ペットボトルのサイズは変わりませんが、初めてをジュース買ってもらったときに日本のカップのＭサイズがアメリカのＳサイズでした。Ｌサイズは、１リットル位ありました。ピザのサイズもＭサイズで直径が５０センチぐらいありました。お弁当も日本のようなお弁当箱もありましたが、一つの箱の中にクラッカー、チーズ、ハム、オレオ、ジュースが全部入っているものやサンドウィッチ専用のお弁当箱など日本とは、違うものも沢山ありました。お菓子の味も独特なものが多く、特にマシュマロは食感

がシャリシャリしていてシップの味がしました。ラムネも、ルートビアというジュースもシップの味が多かったです。正直食べられる味ではありませんでした。

３．学校について

登校するときは、車で送ってもらっていたり、スケーター、自転車など様々でした。

服は私服で、制服の学校はありませんでした。　小中学校がまとめられている学校もありました。　中休みがあり自分で持ってきたお菓子をたべていました。　昼食は、給食ではなくお弁当を持ってきて食べていました。お弁当の中身は、サンドウィッチや、リッツ、ハム、チーズ、ジュース、お菓子がひとつの箱入っているものなどでした。

授業は、先生がパソコンや、タブレットを使ってスクリーンに映して行っていました。

校舎は、全部１階建てでひとつひとつの教室によって机の形が違って椅子の形も様々でした。

校庭はとても広くサッカーのコートが三つ位入りそうでした。

４、気候について

昼間は、暖かく日本の春ぐらいでした。

夜は、とても冷えて上着があっても寒い日本の秋の夜ぐらいでした。

私が滞在した家ではエアコンがなく、夜に窓を開け冷気を部屋に入れ、朝閉めると日中も涼しく過ごすことができました。そのため、クーラーがなく空気を回すファンが天井にありました。私は熱がりなので日本では、エアコンがないとねむれませんでした。でも、エアコンなんて必要ありませんでした。布団を被っても寒い位でした。雨は、滞在したときに一回だけ少し降りました。モーガンヒル市では、まとまった雨が４年間降っていないそうです。

とても乾燥しているため丘の芝生は、枯れていました。乾燥のせいで山火事が多いそうです。

モーガンヒル市では、他の市から水をもらわないそうです。そのためモーガンヒル市では、水を蓄えておくそうです。水はとても貴重なのであまり庭に水をあげていませんでした。

【感想文】

私は、二度目の選考で、念願のモーガンヒルに行けることになりました。

ホームステイ先は女の子のカイリーの家です。

初めて飛行機に乗り、初めて海外に行きました。初めて飛行機に乗るので、飛ぶ時、すごく緊張しました。でも、飛んだ瞬間は全くわからなくてガタゴトガタゴト揺れてから、「ああ、飛んだんだな。」と思

いました。飛行機の中では、カイリーの好きな、“モアナと伝説の海”を見ました。見ている途中にご飯が出てきました。あこがれの「チキン or パスタ？」を聞かれました。チキンを頼みました。すると、箱が二つとパンが出てきました。（何だコレ？」と思って開けてみるとホカホカのチキンが入っていました。美味しくなかったけど、一緒に出てきたペーパーナフキンがいろいろな種類があり、すごく可愛かったです。そして、サンフランシスコに着き、空港の中の表記がほとんど英語だったので、（やっとアメリカに着いたんだなー！）と思いました。

空港から出たときに空を見上げたら、澄んでいて日本より青かった。町長さんが言っていた、“空気が違う”の意味がわかりました。乾燥していて、ベトベトしません。日陰に行けばとても涼しく、体感で１０度ぐらい差がありました。初めて標識を見たときに、日本より一回り大きく、見やすくて可愛いと思いました。

昼食は、サンフランシスコで白身魚のフライとフライドポテトを食べました。フライドポテトは和製英語で、英語ではフレンチフライスと言っていました。それから、四時間くらい車で移動してモーガンヒル市に着きました。バスを降りると、カイリーがいました。やっと会えた！とてもうれしかったです。

カイリーの背は私よりも低く、とてもかわいいと思いました。そこで、パーティーをした後、丘の上に行き夕陽を見ました。空気が澄んでいてとてもキレイでした。カイリーの家はすごく大きかったです。

次の日、ピクサーとサンフランシスコに行きました。

ピクサーでは、映画が出来るまでを知ることができ、私の好きな“カーズ”“モンスターインク”“トイストリー”が誕生した場所に行けたので、すごく感動しました。

保坂　凜　　瑞穂第二中学校３年

【報告書】『文化や地域の施設について』

仏教徒センター・アネックス

　敷地内に二つの建物が建っていて、パーティーをやる際や集合場所として使用されていました。日本の歴史についての写真や品物などが飾られていました。

シティーホール

　市役所。比較的新しくそれぞれの職員の方のデスクが個室のように区切られていて、会議室や市長室もありました。市の業務、ほぼ全てがそこで行われているそうです。

市議会

　シティーホールの隣にあり、市長、議員、シティーマネジャーの座る席と傍聴席があり、瑞穂町の議会に比較的似た造りになっていた。

マシャドスクール

住宅の少ない丘のほうにあった。かつて交通網が発達していなかったため、ダウンタウンまで学校に通うのが大変だという理由で近くに住む有力な三家の協力により建てられたそうです。メアリーさんも教師として生徒さんたちを教えていたそうです。今は耐震設備や交通網の発達などの理由で普段は使用されていないそうです。

図書館

今回ツアーさせて頂いた図書館は一階のみですが、天井も高く、とても広かったです。返却本をジャンルや棚ごとに仕分ける機械がありました。また、貸し出しは職員の方ではなくコンピューターで行われていました。とても広く、設備も整っていましたが、その図書館はモーガンヒル市で一番小さいそうです。

モーガンヒル市歴史博物館

民家のような外観の博物館で、インディアンの住居の模型や動物の毛皮、タイプライターなどがあり、タイプライターで文字を打たせてもらう体験をしました。

モーガン・ヒルハウス

モーガンヒル市歴史博物館の施設内に建っているモーガン・ヒルさんのお家。モーガン・ヒルさんはモーガンヒル市ができるきっかけを作った方で、夏に別荘として使うために建てたそうです。この家がモーガンヒル市の最古の家だそうです。

モーガンヒル市警察署

普段は地元の人でも立ち入ることが難しいような所まで見せていただきました。オフィスに机は四つしかなく、その日に出勤した人が交代で使っているそうです。警察官になるための勉強をするための部屋もあり、災害が起きたときの対処法などを学ぶそうです。

【感想文】

今回、この瑞穂町青少年国際派遣事業に参加させていただいたことは私にとってとても意義があり、憧れだった広い世界へ踏み出す良い機会になりました。また、町の代表としてそれぞれ目的を持った同年代の人と一緒に行くことで、責任感を持つことやお互いに、協力しあうこと、高めあうことを改めて学びました。

私は、海外に行くのが初めてで、英語も得意な訳ではないので、ホームステイがとても不安でした。事前研修で、シャワーの時間が短いことなどを聞いて、さらに不安になりました。しかし、いざ行ってみるとホストファミリーはとても優しく、つたない英語でしたが、なんとかコミュニケーションをとることができたのです！現地に住んでいる方に通じたことが自分にとってとても嬉しかったです。

私のホストファミリーをしてくださったマッケンジー一家は、とても明るく、優しかったです。ウェルカムパーティーが終わり、家に帰ってすぐにお土産を渡したことで、会話の話題ができ、すぐに打ち解けることができました。また、次の日がフリーだったので、出かけることで仲良くなれたと思います。たくさんのものを食べさせてくれたり、いろいろな場所に連れてってくださったり、本当にお世話になりました。

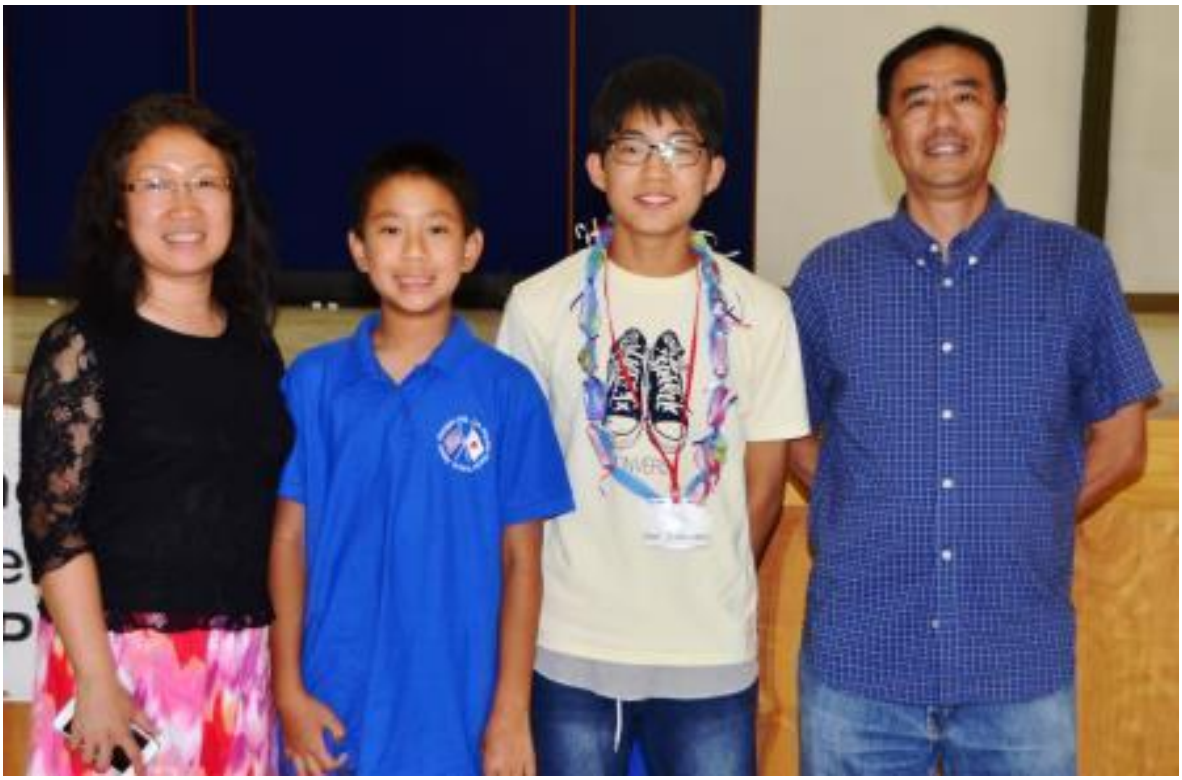
私が一番楽しみにしていたのは、アメリカの学校に行くことでした。

映画で見たりしていてなんとなく想像はしていましたが、実際に行ってみると、やはり日本と全然違いました。

校庭は広いし、授業は選択だし、決まった教室はないし・・・。自分の目で見ると全然違い、きちんと見てみないと分からないな、と思いました。私が一番驚いたのは、二時間目と三時間目の間に『ブレイク』という時間があることです。その時間に、みんなおかしを食べていました。そんな時間まであるんだ！！と、とてもビックリしました。

改めて、中学生のうちに海外に行く！という経験ができ本当に良かったと感じました。私は将来、様々な言語を話せるようになりたいと思っています。そして今回アメリカに行き英語を使うことで、学んだ英語が使えるんだ！と思いました。しかし、同時に自分の英語力のなさを知ることができました。それを知れたことで勉強をもっと頑張ろうと思いました。そして、高校生になり世界に通用する語学力を身につけ、来年の受け入れをしたいです。さらに、２０２０年の東京オリンピックにボランティアとして参加したいです。

沼澤　賢　　都立立川国際中等教育学校３年



【報告書】『モーガンヒル市の歴史について』

「モーガンヒル」という市の名前は、この地に木造家屋を建てた「ハイラム・モーガン・ヒル」氏の名前を取って付けられた。モーガンヒル氏は、妻ダイアナのためにこの家を建てたが、実際のところほんの数年しか住むことなく、家としての機能はなくなった。この家の名前は「ヴィラ・ミラ・モンテ」といい、隣接する「モーガンヒル博物館」と共にモーガンヒル市の歴史を伝えている。

モーガンヒル市の位置するアメリカの西海岸には多くの日系の方々が在住している。第二次世界大戦前にアメリカに移住した日本人の二世や三世、四世の方々だ。彼らの多くはもう日本語があまり、もしくはほとんど話せないという。もはや完璧なアメリカ人という訳だ。モーガンヒル市の前市長が日系人だったことがそれを物語っている。しかし、どうやら日系人がここまで認められ、アメリカ社会になじむまでは、相当な苦労があったようだ。

モーガンヒル市に最初の日系移民が移住してきた頃、当時のカリフォルニアでは人種差別がひどく、日系人もその標的にされた。市民権

を得られず、そのため自分の土地を持てなかったのだ。また、真珠湾攻撃によって、アメリカ生まれの日系人でさえも強制収容所に入れられてしまったこともあった。しかし、そのような辛いことに耐え、日系人は強制収容所から解放された後、互いに助け合いながら、生活を築き上げていった。

今、瑞穂町がモーガンヒル市と姉妹都市を結び、僕らが青少年海外派遣事業参加できるのも、彼ら日系人の我慢と努力があったからこそであろう。モーガンヒル市の日系人の方々には敬意を表したい。

モーガンヒル市に限らず、アメリカにも日本の縄文時代のように、狩猟と採集で生活をしていた時代があった。ウサギ、シカ、コヨーテなど、さまざまな動物を獲っていた。それらの動物達の毛皮を、モーガンヒル博物館で触ることができた。ふさふさしていて暖かそうだった。家の造りは日本の縄文・弥生時代とは少し違っていた。日本は高床式倉庫が有名だが、それは日本が高温多湿なためで、カリフォルニアに関しては湿度が低いため高床式の建物は見られない。ただ藁や毛皮、木などを使っている点では日本と似ている。

モーガンヒル市の歴史を見ていくと、大昔から少しずつ日本とは違いがあることが分かった。その中で、モーガンヒル市は日本人との交流を深めていったことが分かった。

【感想文】

　モーガンヒル市に行けると決まった時は、嬉しさと同時に不安もありました。果たしてアメリカで上手くやれるか、ほかの団員と仲良くなれるか。でもその不安はすぐにほぐれました。他のメンバーがフレンドリーで、とても話しやすかったので、すぐに馴染めました。

アメリカに行くのが楽しみで、飛行機内ではほとんど眠れませんでした。ウェルカムパーティーではみんなが暖かく迎えてくれてとても嬉しかったです。ジョシュアとは LINE でやりとりをしていたため、すぐに仲良くなれました。

次の日の土曜日は一日中ジョシュア一家と過ごしたため、一日英語漬けになれました。そのため僕が間違えやすい英語も知ることができました。アメリカの高速道路は片道４車線ありました。それだけアメリカ人の移動手段として車が多く使われているのです。日曜日、この日は全員で遊んで過ごしました。まず「ロッキンジャンプ」というトランポリンがメインのアスレチックハウスに行きました。その後、プールでみんなで泳いだり、飛び込んだりして遊びました。どちらもとても楽しかったです。

モーガンヒルの市役所及び市議会は、僕にとって貴重な体験になりました。アメリカの自治体がどのように市を運営しているのか、瑞穂町との違いは何かを考えながら、この２ヶ所を見て回りました。またモーガンヒル図書館は日本の図書館よりも利用しやすいように感じました。モーガンヒル市の中学校は学校ごとに独自のカリキュラムを持っていて驚きました。またどの学校も広くて羨ましかったです。

大学にも行きました。スタンフォード大学とカリフォルニア大学バークレー校に行き、学校の様子を見ることができました。有名大学の多くはキャンパス内に塔を持ち、それが大学のシンボルになっていると知り、驚きました。

お別れパーティーではけん玉を成功させることができ、アナ雪と恋ダンスもサマーファンより上手くいったのでよかったです。ジョシュアからの手紙には感動して、泣きそうになりました。実際アメリカを去る日には泣いてしまいました。

１０日は短すぎました。しかしその１０日間の間に、たくさんの出会いをして、多くの人と交流することができました。こんなにも楽しくて有意義だった１０日間はありません。このような経験をさせていただき、福井さん、福岡さんをはじめ、モーガンヒルホームステイにおいて僕を支えてくださったすべての人にお礼を申し上げます。

１１　終わりに

瑞穂町では平成１８年７月３日に米国カリフォルニア州モーガンヒル市と姉妹都市提携の調印を行い、これまでに様々な国際交流事業を実施しています。今回選ばれた８名の派遣中学生は瑞穂町の中学生代表としての自信と自覚を持つことはもとより、現地研修に向けての目的意識を持って取り組み、さらに、一人一人が瑞穂町の友好親善大使としての役割をもち、滞在先で出会った人たちと積極的に関わり、様々な交流を通して、モーガンヒル市の方々と友好を深めることができました。また、本事業は単なる海外派遣研修ではなく、ホストファミリー宅へホームステイする事業であり、派遣中学生はそれぞれのホームステイ先で日本では体験できない貴重な財産を手にして帰国しました。

今回の派遣事業を通して、瑞穂町のよさを再認識し、自己の視野を広げ、若い世代の視点から、自己の生き方や今後の国際交流等のあり方などについて考える機会となったことと思います。

来年度には、モーガンヒル市から同年代の青少年が瑞穂町に訪町する予定です。ホストファミリーとして又は同年代の青少年として事業に携わり、今後の瑞穂町の中核を成す存在になることを願っています。

瑞穂町教育委員会

＝　参考資料　＝

募集チラシ

平成２９年度瑞穂町青少年国際派遣事業

姉妹都市モーガンヒル市派遣団員募集

瑞穂町と姉妹都市であるモーガンヒル市へ中学生８名程度を派遣します。
交流を深めて国際感覚を養うとともに社会性や自立性、感性の向上を目指し、ホームステイを通じてアメリカと日本の文化や慣習の違いを学びます。
また、日常会話に必要な英語力を身につけてコミュニケーション能力を高めます。

派　遣　先：アメリカ合衆国カリフォルニア州モーガンヒル市
派 遣 期 間：平成２９年８月１８日（金）～８月２８日（月）
派 遣 人 員：中学生８名程度
主な活動内容：ホームステイ体験、モーガンヒル市内学校体験入学、報告書の作成等。
参加者負担金：一人６０，０００円
ただし、パスポート取得費用、土産代等は含みません。
派遣者の世帯が要保護・準要保護世帯の場合、参加者負担金を減免します。

※申込み方法等の詳細は裏面に記載

モーガンヒル市の紹介

・人　　口：約 36，000 人　　・面　　積：19.31ｋ㎡　　・平均気温：夏 32.3℃ 冬 0.9℃

モーガンヒル市はカリフォルニア州サンタクララ郡に属し、サンフランシスコから南へ 110km の位置にあります。 1906 年の市制施行当初は、牧場や農業、果樹栽培が主な産業でしたが、最近では、ハイテク産業の集積しているシリコンバレーのベッドタウンとして発展しています。市の西側に位置する特徴のある丘「エルトロ（スペイン語で牡牛の意）」のシルエットが市の公式ロゴとなっています。夏場でも朝夕の冷え込みが強く上着が必要なほどです。時折タイフーンや竜巻に見舞われることがありますが、降雪はほとんどなく、年間平均雨量は 480mm で、夏季は乾期

CITY OF MORGAN HILL

平成２９年度 瑞穂町青少年国際派遣事業

報告書

発　行　日：平成２９年１２月５日
編集・発行：瑞穂町教育委員会 教育部 社会教育課 社会教育係
〒１９０－１２２１
東京都西多摩郡箱根ケ崎２４７５番地
電　話（０４２）５５７－６６９５（直通）
ＦＡＸ（０４２）５５７－７６６７